



薩摩半島南岸から得られた鹿児島県本土初記録のナミフェダイ

石原祥太郎¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学水産学部（鹿児島市）

k3053002@kadai.jp

² 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 16 November 2021

Revised 18 November 2021

Accepted 19 November 2021

Published 20 November 2021

DOI 10.34583/ichthy.14.0_31

Shotaro Ishihara and Hiroyuki Motomura. 2021. First record of *Lutjanus rivulatus* (Lutjanidae) from Kagoshima mainland, southern Kyushu, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 31–34.

Abstract

A single specimen (174.6 mm standard length) of *Lutjanus rivulatus* (Cuvier, 1828) (Perciformes: Lutjanidae) was collected from Ibusuki, south coast of the Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan. In Japanese waters, *L. rivulatus* has been recorded from the Ogasawara Islands, Kanagawa, Shizuoka, Wakayama, Kochi, and Miyazaki prefectures, the Osumi Islands, Amami-oshima island, and the Okinawa Islands. Thus, the present specimen, described herein in detail, represents the first record of the species from Kagoshima mainland.

フェダイ科フェダイ属 *Lutjanus* Bloch, 1790 は、背鰭が 10–12 棘 12–16 軟条であること、上枝鰓耙数が 4–10 であること、および両顎前方に大きな犬歯状歯をもつことなどにより特徴づけられ (Allen and Talbot, 1985), 日本から 26 種が知られている (佐藤ほか, 2021; 本村, 2021)。このうちナミフェダイ *Lutjanus rivulatus* (Cuvier, 1828) はアフリカ東岸からソシエテ諸島にかけてのインド・太平洋に広く分布し (Allen and Talbot, 1985; 島田, 2013), 日本では小笠原諸島, 神奈川県から宮崎県にかけての太平洋沿岸, 大隅諸島, および琉球列島から記録されている (島田, 2013; Koeda et al., 2016; Iwatsuki et al., 2017; Motomura and Harazaki, 2017; Tanaka and Shinohara, 2018; 山川ほか, 2018; Nakae et al., 2018; 三木, 2021; 井上ほか, 2021)。

2020 年 10 月に鹿児島県薩摩半島南岸の指宿市開聞川尻港から 1 個体のナミフェダイが採集された。これまで本種

の鹿児島県における分布は大隅諸島以南の島嶼域に限られており (鎗木, 2016; Motomura and Harazaki, 2017; Tanaka and Shinohara, 2018; Nakae et al, 2018; 畑, 2019), 指宿産の標本は本種の鹿児島県本土における初めての記録となるため, ここに報告する。

材料と方法

標本の計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) と Allen and Talbot (1985) にしたがった。側線上方横列鱗数と側線下方横列鱗数は、それぞれ背鰭基底と臀鰭基底に接する小鱗を各 1 枚として計数した。体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。標準体長は体長または SL と表記した。生鮮時の体色は固定前に撮影された標本のカラー写真に基づく。標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

Lutjanus rivulatus (Cuvier, 1828)

ナミフェダイ

(Fig. 1)

標本 KAUM-I. 147771, 体長 174.6 mm, 鹿児島県指宿市開聞川尻港 (31°10'40"N, 130°33'19"E), 水深 5–6 m, 2020 年 10 月 24 日, 釣り, 松本 悠。

記載 背鰭鰭条 X, 15; 臀鰭鰭条 III, 8; 胸鰭鰭条数 17; 腹鰭鰭条 I, 5; 側線有孔鱗数 48; 側線上方横列鱗数 9; 側線下方横列鱗数 20; 頬鱗列数 6; 鰓耙数 6 + 11。各体部測定値の体長に対する割合 (%) : 体高 46.0; 体幅 17.3; 頭長 39.6; 吻長 15.5; 眼径 8.0; 両眼間隔幅 9.9; 上顎長 15.9; 眼下高 9.4; 尾柄長 17.9; 尾柄高 13.2; 背鰭前長 44.8; 臀鰭前長 71.2; 腹鰭前長 41.1; 背鰭第 1 棘長 5.6; 背鰭第 2 棘長 10.0; 背鰭第 3 棘長 13.3; 背鰭第 4 棘長 14.4; 背鰭第 5 棘長 14.1; 背鰭第 6 棘長 13.1; 背鰭第 7 棘長 11.9; 背鰭第 8 棘長 10.4; 背鰭第 9 棘長 10.0; 背鰭第



Fig. 1. Fresh specimen of *Lutjanus rivulatus* (KAUM-I. 147771, 174.6 mm SL) from Ibusuki, south coast of the Satsuma Peninsula, Kagoshima Prefecture, Japan.

10 棘長 10.3；背鰭第 1 軟条長 12.0；背鰭最長軟条長 14.3（第 8 軟条）；臀鰭第 1 棘長 5.9；臀鰭第 2 棘長 13.5；臀鰭第 3 棘長 11.5；臀鰭第 1 軟条長 12.8；臀鰭最長軟条長 18.1（第 4 軟条）；胸鰭長 34.2；腹鰭棘長 12.8；腹鰭長 21.4；尾鰭長 24.6。

体は前後方向に長い楕円形で側扁し、体高は背鰭第 5 棘基底付近で最大となる。体背縁は吻端から背鰭第 5 棘基部にかけて上昇し、そこから尾柄にかけて下降する。体腹縁は下顎先端から肛門にかけて緩やかに下降し、そこから尾柄にかけて緩やかに上昇する。上顎の先端は下顎の先端より僅か前方に位置し、上顎後端は眼窩前縁直下を越えるが眼窩中央直下には達しない。両顎には、犬歯状歯が 1 列に並ぶ。鋤骨歯帯は三日月状で、後方に延長しない。鼻孔は 2 対で両鼻孔は僅かに離れ、眼の前方に位置する。前鼻孔は正円に近い円形で、開口部は皮弁に囲まれ、皮弁の後縁は伸長して尖る。後鼻孔は吻端から眼窩に向かう長い裂孔状を呈し、低い皮弁を前後縁に有する。眼は頭部中央より僅か上方に位置し、正円形をなす。前鰓蓋骨の後縁は鋸歯状で、下縁は平滑。鰓蓋後縁の中央部は後方に突出し、鰓蓋縁は平滑。背鰭起部は腹鰭起部直上より前方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上より後方にそれぞれ位置する。背鰭棘は第 4 棘が最長。背鰭棘条部の鰭膜の切れ込みは前部ほど深く、後部ほど浅い。背鰭軟条部縁辺の輪郭は丸みを帯びる。胸鰭基底上端は鰓蓋後端よりも前方、胸鰭基底

下端は鰓蓋後端直下にそれぞれ位置する。胸鰭後端はやや尖り、背鰭第 1 軟条基底直下に達する。腹鰭基底は鰓蓋後端直下に位置し、たまた腹鰭の後端は肛門に達する。臀鰭起部は胸鰭後端直下に位置する。臀鰭棘は第 2 棘が最長で、臀鰭軟条部の後縁は尖る。尾鰭は截形を呈する。肛門は背鰭第 10 棘条直下に位置し、前後に長い円形。体部、頬部、鰓蓋、背鰭基部、および臀鰭基部は櫛鱗に被われる。体表鱗の露出部と被覆部の境界線は後方に凹む。

色彩 生鮮時の色彩（Fig. 1）— 体側面の地色は黄褐色で、背面は茶褐色、腹面は赤褐色を呈する。体側各鱗は後縁が褐色で縁取られ、内部に小灰白斑を有する。体背側の鱗の小灰白斑は青みがかかる。背鰭第 3 軟条基底下方の側線上に瞳孔大の白みがかかった赤褐色斑が 1 つあり、その周囲は黒く縁取られる。頭部は黄褐色で、鰓蓋後端は茶褐色、頭腹面に近づくほど赤褐色になる。頭部には多数の青紫色縦波線があり、鰓蓋上ではやや不連続。背鰭と臀鰭は全体的に暗い黄色で、被鱗域は茶褐色。胸鰭は鰭膜が黄色がかかった半透明で、胸鰭上部は黒ずむ。胸鰭軟条は暗い黄色を呈し、第 1, 2 軟条は赤褐色を呈する。腹鰭は全体的に黄褐色で、第 1 軟条の中央から先端は明るい灰色。尾鰭は前半部で茶褐色、後半部で暗い黄色を呈する。

分布 アフリカ東岸からソシエテ諸島にかけてのインド・太平洋に広く分布する（Allen and Talbot, 1985；島田, 2013）。日本国内においては小笠原諸島、神奈川県三浦半

島、静岡県伊豆半島、和歌山県串本、高知県、宮崎県日向灘、大隅諸島（種子島・屋久島）、奄美群島（奄美大島）、沖縄諸島（沖縄島）、および八重山諸島（石垣島・西表島・与那国島）から記録されていたが（島田，2013；鐙木，2016；Koeda et al., 2016；Motomura and Harazaki, 2017；Iwatsuki et al., 2017；Tanaka and Shinohara, 2018；山川ほか，2018；Nakae et al., 2018；畑，2019；井上ほか，2021），本研究によって分布の空白域であった鹿児島県本土の薩摩半島南岸からも本種が記録された。

備考 指宿産標本は背鰭軟条数が15であること、体長が体高の2.2倍であること、吻部に多数の青色波線をもつこと、および臀鰭の後縁が尖ることなどの特徴がAkazaki (1983), Allen (1985), および Tanaka and Shinohara (2018) の示した *L. rivulatus* の標徴と一致したため、本種に同定された。指宿産標本は体側後半部の側線上の1斑の色彩が白みがあった赤褐色であったが（Fig. 1），Akazaki (1983), Allen (1985), および Tanaka and Shinohara (2018) は白色としておりわずかに異なるが、その他の形質と色彩はよく一致した。したがって、本標本における体側後半部の側線上に1つみられた斑の色彩は種内変異とみなした。

ナミフエダイ *L. rivulatus* はフエダイ *Lutjanus stellatus* Akazaki, 1983 と鋤骨歯帯の中央部が後方に伸長しないことや体側に小白斑をもつことなどの形態的特徴を共有するが、前者は後者と比較して、吻部に多数の青色線があること（後者では青色線がないか、あっても数本）、体側後半部の小白斑が側線上にあること（側線より上方）、臀鰭後縁が尖ること（丸い）、および体表の鱗における露出部と被覆部の境界線が後方に凹む（直線状である）ことなどによって識別される（Akazaki, 1983；島田，2013；Tanaka and Shinohara, 2018）。

ナミフエダイの国内における記録は「分布」の項目で述べたとおりであり、鹿児島県本土からの本種の記録は知られていない。したがって、本研究で記載した標本は鹿児島県本土における本種の初めての記録となる。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学水産学部水産学科の松本 悠氏には貴重な標本を提供していただいた。同大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生やボランティアのみなさまには、標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。同大学大学院農林水産学研究所の渋谷駿太氏・古橋龍星氏、神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏氏、およびいおワールドかごしま水族館の中村潤平氏には本稿に対する適切な助言をいただくとともに、文献の収集にご協力いただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費（20H03311・21H03651）、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型（CREPSUM JPJSCCB20200009）、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- Akazaki, M. 1983. A new lutjanid fish, *Lutjanus stellatus*, from southern Japan and a related species, *L. rivulatus* (Cuvier). Japanese Journal of Ichthyology, 29: 365–373. [URL](#)
- Allen, G. R. 1985. FAO species catalogue. Vol. 6. Snappers of the world. An annotated and illustrated catalogue of lutjanid species known to date. FAO Fisheries Synopsis, 6: i–vi + 1–208.
- Allen, G. R. and F. H. Talbot. 1985. Review of the snappers of the genus *Lutjanus* (Pisces: Lutjanidae) from the Indo-Pacific, with the description of a new species. Indo-Pacific Fishes, 11: 1–87.
- 畑 晴陵. 2019. フエダイ科, pp. 158–171. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典（編）奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター，鹿児島。
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes region. Bulletin of Cranbrook Institute of Science, 26: 1–186.
- 井上裕太・幸大二郎・溝脇一輝・山口 蓮・永江葉奈・内藤大河・富森祐樹・松沼瑞樹・遠藤広光. 2021. 高知県春野漁港内で新たに記録された四国初記録のズングリナガミミズハゼ（ハゼ科）を含む魚類 51 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 10: 21–38. [URL](#)
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga nada area, southwestern Japan. Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University, 43: 27–55. [URL](#)
- 鐙木 紘一. 2016. 種子島の釣魚図鑑. たましだ社，西之表. 158 pp.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. vi + 120 pp. [URL](#)
- 三木涼平. 2021. ナミフエダイ, p. 151. 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏（編）新・門川の魚図鑑：ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド，延岡。
- 本村浩之（編）. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 本村浩之. 2021. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 11. [URL](#) (2021年11月15日)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1–183. [URL](#)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo, 52: 205–361. [URL](#)
- 佐藤真央・井上裕太・溝脇一輝・小林大純・松尾 怜・外山太一郎・日比野友亮. 2021. フエダイ科 *Lutjanus biguttatus* フタホシフエダイ（新称）の日本からの初記録. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.20-036 (Mar. 2021), 68: 17–22 (Apr. 2021).

- 島田和彦. 2013. フエダイ科, pp. 913–930, 2001–2002. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Tanaka, F. and G. Shinohara. 2018. Taxonomy and distribution of Star Snapper *Lutjanus stellatus* Akazaki, 1983 (Perciformes: Lutjanidae). Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A, 44: 29–40. [URL](#)
- 山川宇宙・三井翔太・丸山智朗・加藤柊也・酒井 卓・瀬能 宏. 2018. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 18 種—近年における暖水性魚類の北上傾向について—. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 47: 35–57. [URL](#)